



千年村チェックリスト Ver.2.3

千年村チェックリストは、環境・地域経営・交通・集落構造の観点から、自ら住む地域についての自己評価を行うことができます。それぞれの項目や、最終ページの自己評価方法までの一連のフローは、2012年より正式に活動した千年村プロジェクトの実地調査による知見を反映したものです。今後、このチェックリストを利用した千年村認証活動も行う予定です。

※チェックリスト記入マニュアルや、過去の事例を参考に記入して下さい。

※記入の際は、個人だけでなく複数人で相談することを推奨します。

※提出の際には必ず自治会長など集落を取り仕切る方の確認を取ってください。

※固有名詞などはできるだけ具体的に記入してください。

※出典は必ず明記して下さい。

※用途以外での千年村チェックリストの無断使用・無断転載は禁止します。

2017.03.31 千年村プロジェクト

———以下、記入欄———

○記入者情報

代表者（自治会長など）

ふりがな
氏名：

肩書：

連絡先住所：

連絡先：

千年村プロジェクト

早稲田大学

代表記入者 氏名： 松木直人 所属： 中谷礼仁研究室 連絡先： 03-5386-2496

記入者2 氏名： 甲斐貴彬 所属：

記入者3 氏名： 所属：

記入者4 氏名： 所属：

0 集落の概要					
集落の名称	現在の地名（大字） かな なめがたし あそうちょう 行方市麻生町	歴史的地域名（参照した古文書の名称とその成立年代） かな なめがたぐんあそうごう 行方郡麻生郷（倭名類聚抄）			
所在地	大字まで書いて下さい。 かな 茨城県行方市麻生町				
面積	(平成28年度) 約7.58 km ²	人口 3,198 人	(平成28年度) 世帯数 1,221 人	(平成28年度) 世帯 資料：住民基本台帳より	
合併の歴史	年月日、地域の名称の変化など、分かる範囲で書いて下さい。 1955年3月31日に太田村・大和村・小高村・行方村と合併し、麻生町が発足。さらに、2005年9月2日に麻生町・玉造町・北浦町と合併し行方市が発足した。				
地域の記録	○○村史、○○市史など地域の記録はあるか（対象大字より広範囲のものでも可）。その発行年・著者。 麻生町史編さん委員会編『麻生町史・民俗編』（麻生町教育委員会、2001） 麻生町史編さん委員会編『麻生町史・通史編』（麻生町教育委員会、2002） 茨城地方史研究会『茨城の歴史 県南鹿行編』（茨城新聞社、2002） 『麻生の文化（1-46号）』（麻生市麻生郷土文化研究会）				



図1 麻生全体図（赤線で囲まれた内側が大字領域）

- ・麻生は「古宿（ふるじゅく）」・「新田（しんでん）」・「宿（しゅく）」・「下淵（したぶち）」・「蒲縄（かばなわ）」・「玄通（げんづう）」・「田町（たまち）」の小字で構成されている。「粗毛」「富田」は近年麻生に編入された小字であり、今回の調査対象としなかった。
- ・城下川（しろしたがわ）が「田町」、「宿」、「古宿」の中を流れ、霞ヶ浦に注いでいる。集落北部に広がる谷底平野・氾濫平野での農作には城下川の水源近くに位置する「黒熊池（くろぐまいけ）」、中程に位置する「石樋池（いしどういけ）」、霞ヶ浦からのポンプアップによって得た水を使用している。

I 環境 –自然とのつきあい方–

番号	ポイント	
①	集落のかたち・立地 古いところ	<p>例) 古い集落はどんな地形に立地しているか。どこの水系に属しているか。また、街道やみなとの関係はどうか。旧河道はどこを通っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦沿いと国道355号線沿いを中心に集落が立地し、いずれの集落も砂州・砂堆・砂丘上の微高地に立地している。 集落を神社の氏子となる地域で分けると霞ヶ浦沿いの古宿・新田、内陸側の宿・下淵・蒲縄・玄通・田町にわけられる。霞ヶ浦沿いでは古宿が古くから存在する。内陸側ではどこが古いか正確に言及することができない。
②	生産地(農地や工場など) の立地	<p>例) 農地、工場、商業地、漁業、林業などはどこに立地しているか。圃場整備の範囲はどこか。工場、商業地がいつできたか。耕作放棄地や空地がどこにあるか。旧河道はどう利用されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 田町北西部の谷底平野・氾濫平野が広大な米の生産地となっている。国道355号線沿いの後背低地では、米・蓮根が栽培されている。耕作放棄地は少ない。 霞ヶ浦沿いの新田・古宿・蒲縄には漁業に従事している者が居住しており、古宿・蒲縄には漁港を構える。 下淵・玄通を通る商店街通り(近年、麻生陣屋通りと命名された)には商店が数多くみられる。
③	主要産業・特産物	<p>例) 現在の主要産業は何か。働き先はどこか(集落内外)。かつての主要産業は何か。特産物はあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦沿いの集落では、ワカサギ・白魚・エビなどの佃煮が特産品として生産されている。それらは、集落内で多い永作姓を冠する会社によって生産されていることから地元住民によって生産されていると思われる。 新田では近年いちごの栽培に力を入れ、特産品として有名になっているという話を住民から聞くことが出来た。
④	水源と水の引き方	<p>例) 農業用水の水源は何か。生活用水の水源は何か。井戸が残っているか。地域内の水路はどこを通っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業用水として、以前は城下川(しろしたがわ)沿いの「黒熊池(くろぐまいけ)」「石樋池(いしどういけ)」というため池を取水源としていたが、現在は加えて淡水化した霞ヶ浦からポンプアップにより水を得ている。(ヒアリングより)
⑤	近年の土地開発について	<p>例) 昭和40~60年代、平成、最近5年程度に行われた開発はそれぞれどこか。開発前の土地利用は何か。開発によって商業、交通などどんな変化が起きたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和35年から36年にかけて、霞ヶ浦と利根川の合流点を仕切る水門である常陸川水門(通称:逆水門)が茨城県神栖市に建設された。水門の設置により、霞ヶ浦の水流は変化し、淡水化が進んだ。また、その変化に伴い、湖岸の浸食が進んだため、少しずつ堤防を築き、昭和61年に現在の総合開発の堤防が完成した。結果として魚種の変化や漁獲量の減少がみられたため、漁火の生活や食生活に大きな影響を与えた。(ヒアリングより)
⑥	過去の災害とその対策	<p>例) 災害危険区域はどこか(ハザードマップなど)。過去、どのような災害があつて、どこに逃げたか、その協力体制。どのような災害を心配しているか。集落内の安全な場所と危険な場所。</p> <ul style="list-style-type: none"> 城下川河口周辺が特に浸水の危険性が高いとされている。それだけでなく、霞ヶ浦沿いの集落は、全体を通して浸水の危険があるとされている(図3)。昭和33年9月26日の台風22号、平成25年の台風26号ではいずれも城下川が氾濫し宿・下淵の境界付近が浸水した記録が残っている。平成には消防団の協力体制により被害者はでなかつたという。 <p>参考:『なめがたヒストリー「行方市の災害史について考える』(https://namegata.mypl.net/mp/history_namegata/?sid=22318)</p>
⑦	その他	<p>自由記述・図示など。</p>  <p>(図2) 土地条件図 (出典: 地理院地図) (図3) 行方市ハザードマップ (作成: 行方市, 2015)</p>

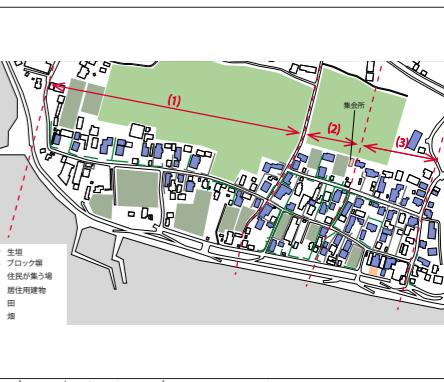
II 地域経営 –集落を支える仕組み–

番号	ポイント	
①	各種組織	<p>例) 行政区、町内、班といった地域的な組織の構成および目的別の組織(消防団、氏子、講など)にはどのようなものがあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団が各集落存在し、活動が行われていることがヒアリングでわかった。 八坂神社の「馬出し祭り」は古宿・新田の氏子が、大麻神社の「大麻神社例大祭」は宿・下淵・蒲縄・玄通・田町の氏子が祭りを取り仕切っている。 講の存在はにて『麻生町史・通史編』にて確認できるが、詳細は今回の調査では明らかになっていない。
②	地域内での情報伝達、連絡の方法	<p>例) 地域内の情報の共有や連絡はどのように行われているか。(回覧板・ウェブサイト(URL)・公民館便りなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なめがた日和」という地域ポータルサイトを運営している民間組織(株) フューチャーリンクネットワーク(以下FLN) 行方支店は、地域での店舗情報・イベント情報に限らず、行方市と提携し行政情報をWebにおいて発信している。また後述する歴史コンテンツは地元出身者の社員によって企画・更新されている。
③	山林、里山または湖などの管理主体	<p>例) 地域に共有性のある土地利用(入会地など)が行われているところはあるか。その利用主体の組織はどのようにになっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 田町の北西部の水田は麻生内の複数の集落によって所有されている。土地がどのように分割され、管理されているかは今回の調査では明らかになっていない。
④	水の管理主体	<p>例) 水門、水路などの水利用施設の維持管理を行う組合、組織はあるか。農業用水以外の水利用に関わる組織はあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源の管理は水利組合によってなされている。(ヒアリングより) 水利組合の構成に関しては今回の調査に関しては明らかになって
⑤	地域祭礼・年中行事	<p>例) 祭礼についてその概要や成立時期、祭礼と地域住民の関わりはどうなっているか。また地区対抗運動会など地域が参加する年中行事はあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 八坂神社では「馬出し祭り」(成立年代不明)、大麻神社では「大麻神社例大祭」(成立年代不明)が行われており、どちらの祭礼も編成される祭礼組織が世代を超えた人々の交流・地域文化の継承の場となっている。
⑥	地域の歴史・物語の伝承	<p>例) 地域の歴史や物語などを伝える活動、組織(郷土史会、歴史遺構の広報活動など)はあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。出版物には出版年・著者などを記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 麻生市麻生郷土文化研究会(Tel. 0299-72-0811) 「行方市文化財マップ」(行方市教育委員会生涯学習課) 「なめくわし『常陸國風土記』行方条ゆかり地を巡る」(行方市教育委員会生涯学習課) 「なめがた日和」のコンテンツ「なめがた今昔物語」「なめがたヒストリー」では地域の歴史・文化が一般の人々にわかりやすく公開されている。
⑦	口伝・通称の地名	<p>例) 住所表示や地図には存在しないが地域で共有されている場所(山、集落、田、川など)の呼称、通称地名はあるか。(フリガナをつける)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ハマ」…霞ヶ浦沿いの地域 「ナカ」…街道沿いから台地までの地域 「ザイ」…台地上の地域 <p>以上3つの地域を区分する名称が存在することがヒアリングにより確認された</p>
⑧	その他	<p>自由記述・図示など。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フューチャーリンクネットワーク」(https://www.futurelink.co.jp/) 「なめがた日和」(https://namegata.mypl.net/) ②、⑥で言及したように地域の歴史・文化を伝える媒体が充実しており、積極的に地域を発信していくという姿勢が見られる。  <p>(図4) 「なめがた日和」 (図5) 「行方市文化財マップ」</p>

III 交通 一人とモノの往来ー

番号	ポイント	
①	昔からの道	<p>例) 古くからある道で名称、種別、用途、起源などがわかるものはあるか。また、どこにつながっていたか、主に何を運んでいたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 麻生城があった際、その麓に形成された「宿」からのびるように商店街通り（現名称は麻生陣屋通り）が形成された。
②	現在の主要な道路	<p>例) 現在の生活の中で主に使われている道はどれか。その名称、完成時期などとそれぞれの利用方法（○○へ行く道、集落内移動、さんぽなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和 20 年頃に現在霞ヶ浦周辺を南北につないでいる国道 355 号線の工事が行われた。（麻生陣屋大通りは旧道となった）
③	建設予定の道路の有無	<p>例) 地域に影響がありそうな道路の新規建設計画、拡幅などの改良計画はあるか。その名称、完成予定時期、目的、また集落の存続に与える影響など。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
④	水運の有無と利用法	<p>例) かつて使われていた水上交通（川、堀、河岸、港など）はあるか。それらは、どのように使われていたか。今はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦一帯（水郷）における江戸への水運の要であった千葉県佐原と、水運による交流が盛んに行われていたことが言及されている。（『麻生町史・通史編』より） その他、霞ヶ浦対岸の浮島（うきしま）を麻生が所有していたことからも霞ヶ浦での水上交通が盛んであったことが推測される。（ヒアリングより）
⑤	鉄道の有無、 その経緯と現状	<p>例) 地域に関わりのある鉄道はあるか。廃線になったものも含めて、その路線、駅、主な用途、時代的変化などはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 関東鉄道鉾田線が 1927-2007 年に茨城県石岡市の石岡駅と茨城県鉾田市の鉾田駅までを結んでいた。（図 6） 麻生へと続く鉄道ではなく、東関道高速バス麻生鉾田線のバスが 1 日に 6 本、東京駅から麻生市庁舎をつないでいる（終点は鉾田駅）。
⑥	その他	<p>自由記述・図示など。</p>  <p>(图 6) 関東鉄道鉾田線 http://k-miyata.com/tabi/hokota/page01.html より引用 (2017. 3. 31 閲覧)</p>

IV 集落構造 ー集落の骨格ー

番号	ポイント	
①	集落の核	<p>例) 古いと言われている場所、集落の起源とされている場所はどこか。皆が中心だと思う地区、寺社、本家などは、どれでどこにあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦沿いの「八坂神社」（創建年不詳）、内陸側に「大麻神社」（806 年創建）が平安期から続く神社といわれており、祭礼行事も行われている。 台地上の大麻神社付近に位置する大宮台遺跡（縄文から平安）からは、かつて生活が行われていた事がわかる物品が出土している。（『麻生町史・通史編』より）
②	墓地の場所と現状	<p>例) かつての埋葬地はどこか。墓地はどこか。その成立時期、管理方法（一族的管理、宗教施設による管理など）に特徴があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
③	集落の維持について	<p>例) 道、石積み、建物などの建設に携わる専門職はいるか。在来工務店はあるか。地場的な素材利用はしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
④	文化・自然遺産の有無	<p>例) 遺跡や旧跡、古民家、古さを示す自然物（御神木など）、古くからある土木構造物はあるか。その年代はいつか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 麻生藩家老屋敷記念館（旧畠家住宅）（1856 年に消失、翌年再建） 現麻生小学校に麻生藩陣屋があり、その周囲に藩士の屋敷が並んでいた。その一つの藩の家老職を勤めた畠家の家屋。 麻生城址（羽黒山公園）（中世）・大宮台遺跡（縄文から平安） 大宮台古墳（縄文から平安）
⑤	集落の型	<p>例) 集落のかたち。地形や水路との関係はどんなふうか。集落内の民家、敷地に共通点はあるか。○○造り等の名称はあるか。（可能であれば図示）</p> <ul style="list-style-type: none"> 古宿の集落は霞ヶ浦に対し短冊形に家屋が並ぶ集落配置となっている。 霞ヶ浦から時化・大時化の際に吹く強い風が吹くために、家屋は低く計画されていたという。また、風が屋内に吹き込まないように玄関は東南東に向いている。 現在、南側の二段の短冊には違う世帯が住んでおり、北側が本家、南側が分家という関係を持っている。霞ヶ浦沿いの土地は農業・漁業に際して干場として使われていたが、人口の増大と霞ヶ浦の変化から、分家のための土地となったという。
⑥	暮らしの工夫 村での発明	<p>例) 集落における面白いモノの利用（独特な軒下の形、水場の使い方など）、そのための小さな発明。修繕のしかたなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
⑦	その他	<p>自由記述・図示など。</p>   <p>(图 7) 古宿の集落（作成：千年村プロジェクト）(图 8) 古宿全体図（作成：千年村プロジェクト）</p>

自己評価

これまでのチェックリストを振り返り、環境・集落構造・地域経営・交通の各要素について以下の3段階評価を行ってください。

そして、その理由を記述して下さい。また、自己評価をもとに、集落についての総合評価を行って下さい。

○自己評価：A・・・優れている B・・・やや優れている W・・・弱い

要素	自己評価	理由
環境	A	基本的に各大字の集落は周囲よりも少し高く位置し、水害に対して安全な土地の上にあるといえる。麻生をはじめとする霞ヶ浦沿いの集落において、昭和30年代以降の霞ヶ浦の開発は環境を大きく変える要因となった。霞ヶ浦の淡水化や汚染によって漁獲量は減り漁によって生計を立てる生活は難しくなったが、 <u>水田を広げ農業用水として霞ヶ浦の水を利用するなどして、その変化に対応してきた点が評価に値する。</u>
地域経営	A	八坂神社における馬出祭り、大麻神社における大麻神社例題祭は現在も地域住民によって盛大に行われている。それに際して編成される祭礼組織は地域住民の世代間を超えた地域文化の継承の場となっている。消防団と祭礼組織との関係も多く見られ地域の防災対策としての役割を担う側面も多く見られる。 また、FLNのように、市とも提携し地域情報を発信するだけでなく、行方の歴史を専門知識を持たない地域住民に対して発信する企業もある。 このように、祭礼組織や企業など様々な団体が地域文化の継承に貢献している様子が見られたことが評価される。
交通	W	元々は水運による佐原や対岸の浮島と交流が盛んであったが、現在は陸路での交通が発達したために衰退している。現在の主要道である国道355号線は工業地帯である鹿嶋への通勤に利用されるほか、1日に6本東京から鉢田の間を運行する高速バスの経路もある。また、近辺に鉄道の駅はない。かつては水運と街道による交流が盛んであったが、交通手段は車が主要なものとなっており、他の地域からのアクセスは限られたものとなっている。 以上より、地域への交通網は良いとはいえないが、そうであるからこそ情報網の発達が望まれ、積極的な情報発信に繋がっているとも考えられる。
集落構造	A	古宿では、南の霞ヶ浦から吹く強風に対して玄関が東南東に向けられている様子が見られた。現在、短冊状に二列に形成される集落は違う世帯が住んでおり、それらは北側に本家、南側に分家という関係を持つものがある。この分家の土地は元々農業・漁業に際して干場として使われていたといい、そこを分家の土地として分けたのである。このようにして、漁業が衰退する一方でかつての作業場に勤め人として働く人々の家が建った。 以上のように、古宿の集落構造には霞ヶ浦の環境に対応した工夫と漁業の衰退による生業の変化に対応した土地利用の転用の様子が見られた。

総合評価

自己評価をもとに、この集落がなぜ千年村であるか、どのような点で千年村として優れているのかなど、自由に記入して下さい。

また、それらが千年村認証基準のどの項目を満たしているか記入して下さい。

麻生の位置する行方市はかつて『常総国風土記』に「行細（なめくわし）の里」といわれたようにひらたく続く土地が広がっていることが、内陸での生産を支えている。また麻生の面する霞ヶ浦では漁業や、交通が行われていただけでなく、淡水化された現在ではポンプアップをおこない生産のための重要な取水源となっている。

霞ヶ浦だけでなく、背後にある山、平野という土地条件が小さなインフラとして機能しているために、浦の環境変化に対して適切に資源として活用していくという対応がなされているといえる。

加えて、麻生（行方市）において特筆されるのは、自身による生産・文化のPRが盛んに行われているということである。情報が項目ごとに断片化されて入るもの、村の持続要因が発信されていることは千年村活動の先行事例としてみることができ、千年村の今後の持続モデルの1ケースであるといえる。

このような環境の変化に対し積極的な対応をなしてきたことと、情報の発信を行っていることが千年村認証基準のIIに該当するといえる。

キャッチフレーズ

集落のキャッチフレーズつくりに挑戦してみましょう。これまでの記述を踏まえて、この集落の持続要因を一言で表してみて下さい。

「浦と向き合い培う暮らし」

集落の写真など



集落北部の谷戸にひろがる田んぼ



霞ヶ浦から麻生を望む



古宿の集落



八坂神社の馬出し祭



大麻神社の大麻神社例大祭



蒲繩の漁港